

一般 「家まで来てくれる」 予約型交通

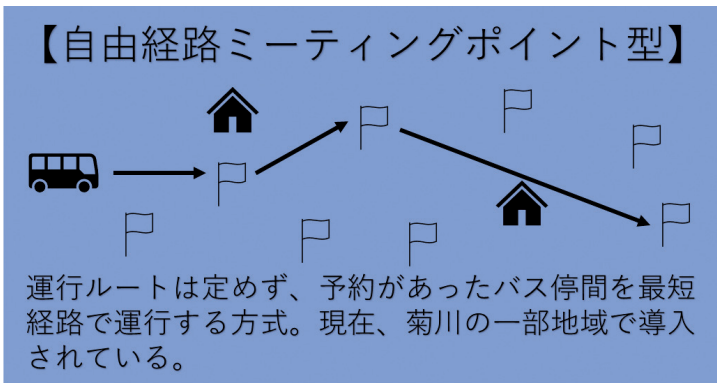
一 渥美 嘉樹 (みどり21)



Q 掛川市では「家まで来てくれる」予約型(「デマンド型」)乗り合いタクシーが導入されている。また、長野県飯綱町では安価なデマンド交通システムを導入し、利便性の向上とコスト削減を同時に達成した。菊川市でも「家まで来てくれる」デマンド型交通を導入するべきではないか。

A 自宅から目的地まで運行することは、タクシーと同様な運行方法となり、タクシー事業者の経営を圧迫することにもつながるため、地域公共交通会議において協議した結果、デマンド運行方式の4つの分類の中から、バス停からバス停まで運行する自由経路ミーティングポイント型を選択した。今後、利便性向上、収支改善に関して地域公共交通会議において、それぞれの立場の方々からご意見をいただき、その結果を基に実行計画へ反映させていく。

Q デマンド型交通の今後のスケジュールは。



A 現在、デマンド運行の主要区域でアンケートを実施しており、これらの意見等も考慮し、令和4年度中に令和5年度以降の運行について協議、決定していく予定である。

他に「菊川での待機児童問題」について質問しました。

一般 菊川茶の振興と荒廃農地

一 渡辺 修 (みどり21)



Q 荒廃農地対策と茶業振興について問う。

A 現在、市内の茶園として登録されている茶園面積と、耕作放棄された茶園面積は把握しているか。

A 市内の茶園面積は、13332ヘクタール。農地全体の荒廃農地面積は、令和元年度より13・7ヘクタール増加している。

Q 茶業振興施策に関して、10年・20年先を見据えた方針は。

A 高い意識と技術を持ち意欲的に取り組んでいる農業者もあり、こうした方々に菊川市の茶業を牽引していただくことで荒廃農地の解消や雇用につながると考えている。

Q 安心して輸出できる防除・農薬指針で栽培してもらいたい菊川茶の優位性を構築できないか。

A 海外輸出に関しては、個別相談会や研修会などを実施している。また、静岡県においては静岡茶輸出拡大協議会を設立し、会員への

情報提供や研修会、商談会なども実施している。

Q 荒廃農地対策として、多面的機能支払交付金や荒廃農地再生・集積促進事業費補助金が多くの人や団体に活用できるように取り組めないか。

A 申請事務の指導に関しては、交付金の活用を希望する団体に対し必要書類の記載方法や事務手続について助言等を行っており、今後引き続き協力していく。



荒廃農地再生と菊川の茶業